

科目	数学（統計学を含む）	必修	履修 学年	1	講義 実習	時間数 (単位数)	36 (4)
目 標	前期では統計学と統計学に必要な数学の基礎を学び、データやグラフの正しい読み取り方、解釈の仕方を学ぶ。後期ではコンピューターを用いてワード・エクセル・パワーポイントなど、社会に出て必要なPCスキルを学ぶ。						
内 容							
1	この授業の進め方	19	コンピューター概論				
2	データを整理するための基礎知識①	20	基本的な文書の作成				
3	データを整理するための基礎知識②	21	ビジネス文書の作成①				
4	データを分析するための基礎知識①	22	ビジネス文書の作成②				
5	データを分析するための基礎知識②	23	表の作成				
6	データを分析するための基礎知識③	24	図形とイラストの挿入				
7	相関関係を調べるための数学①	25	プレゼンテーションの作成				
8	相関関係を調べるための数学②	26	プレゼンテーションの作成のデザイン				
9	相関関係を調べるための数学③	27	パワーポイント演習①				
10	非連続データを分析するための数学①	28	パワーポイント演習②				
11	非連続データを分析するための数学②	29	パワーポイント演習③				
12	非連続データを分析するための数学③	30	集計表の作成				
13	連続データを分析するための数学①	31	関数を使った表計算				
14	連続データを分析するための数学②	32	関数を使った表作成				
15	知っておくべき数学知識①	33	演習①				
16	知っておくべき数学知識②	34	演習②				
17	試験範囲発表及び質疑応答	35	後期レポート提出				
18	前期単位認定試験	36	レポート結果総評				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
<教科書> 医療従事者のための情報リテラシー第2版 <参考> 統計学のための数学教室							
			担当講師	會田夏希			

科目	生物学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物（旧課程：生物Ⅰ・生物Ⅱ）」の内容の特に人体に関する項目に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。						
内 容							
1	この授業の進め方	10	生体防御 1				
2	基本用語	11	生体防御 2				
3	細胞の仕組み	12	呼吸器系 1				
4	細胞の働き	13	呼吸器系 2				
5	刺激と反応の仕組み	14	心臓 1				
6	遺伝	15	心臓 2				
7	特殊感覚	16	総復習				
8	生物の恒常性 1	17	試験範囲発表及び質疑応答				
9	生物の恒常性 2	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
『看護に必要な やりなおし生物化学』 時政孝行 照林社							
			担当講師	會田夏希			

科目	物理学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	物理学の中でも視能に関する光学を中心に学習し、理解する。 また、光学を理解する為に必要な基礎的な力学・電磁気学に関して学習し、生物学・光学へのより深い理解をする。						
内 容							
1	この授業の進め方	10	プリズムとレンズ 1				
2	重力加速度・力のつりあい	11	プリズムとレンズ 2				
3	作用反作用の法則	12	レンズまとめ				
4	その他の力	13	波の基本				
5	電子とは	14	光の干渉				
6	オームの法則	15	光の回折				
7	光学基礎	16	総復習				
8	反射と屈折 1	17	試験範囲発表及び質疑応答				
9	反射と屈折 2	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
『看護に必要な やりなおし物理数学』 時政孝行 照林社							
			担当講師	會田夏希			

科目	外国語 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	<p>グローバル化する日本社会において、基本的な外国人への対応としての医療英語の基礎を学ぶ。 文型を理解し発音、聞き取り、話すを繰り返し練習する。 より実践的に習得するために、会話やロールプレイも重視しながら進めていく。</p>						
内 容							
1	前期概要	10	症状・体の部位				
2	英語能力把握	11	病気・病名				
3	英語能力把握	12	薬の服用・種類				
4	道を聞かれたとき	13	診療・検査の予約等				
5	自己紹介	14	手術				
6	住所・誕生日等	15	術後の経過等①				
7	診療科名	16	術後の経過等②				
8	病院内案内	17	総まとめ				
9	症状・兆候	18	単位認定試験				
評 価							
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。</p>							
教 材							
<p>知念クリスティーン・上村真紀恵、クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院） 教員が用意したプリント</p>							
			担当講師	會田夏希			

科目	外国語 II	必修	履修 学年	2	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	<p>グローバル化する日本社会において、基本的な外国人への対応としての医療英語の基礎を学ぶ。 実際の現場で使える英語の体得をめざす。 より実践的に習得するために、会話やロールプレイも重視しながら進めていく。</p>						
内 容							
1	後期概要	10	産婦人科				
2	Level check	11	小児科/予防接種				
3	単語・会話例文	12	手術				
4	単語・会話例文	13	術後/日常看護				
5	困った時の英語	14	心のケア/文化・宗教				
6	診療手続き	15	実践で使える英会話例文				
7	入院時	16	実践で使える英会話例文				
8	病歴聴取	17	総まとめ				
9	検査	18	単位認定試験				
評 価							
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。</p>							
教 材							
<p>知念クリスティーン・追和子、クリスティーンのレベルアップ看護英会話（医学書院） 教材CD。教員が用意したプリント</p>							
			担当講師	會田夏希			

科目	心理学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	総合病院での視能訓練士としての知識と教育現場で培ったティーチングスキルを元に、医療従事者（視能訓練士）として患者の気持ちを理解することの重要性を伝えたい。人間の心を自他共に理解するための基礎を学ぶ。前半は個人と集団の心理を理解するための基礎的な内容を、後半では臨床心理学や健康心理学、行動分析学から、臨床場面で実践的に活用できる心理学の方法や考えかたを学ぶ。授業のまとめとして、「心の病」というテーマで個々の発表の場を設ける。						
内 容							
1	心理学の歴史を学ぶ	10	児童・青年期の発達				
2	現代心理学を学ぶ	11	成人（初期・中期）の発達				
3	医療職と対人援助職について考える	12	成人（後期）・老年期の発達				
4	外界を理解する心の働き感覚と知覚の仕組みと働きを学ぶ	13	課題個人発表①「テーマ：心の病」				
5	言語とコミュニケーション	14	課題個人発表②「テーマ：心の病」				
6	感情の諸相とメカニズム	15	課題個人発表③「テーマ：心の病」				
7	性格とパーソナリティー	16	課題個人発表④「テーマ：心の病」				
8	発達段階と発達過程について考える	17	課題個人発表⑤「テーマ：心の病」				
9	乳幼児の発達	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
看護学生のための心理学2版（医学書院）、配布資料							
			担当講師	松浦理恵			

科目	視能訓練学実習 I	必修	履修 学年	1	実習	時間数 (単位数)	36 (1)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	高齢化社会をむかえた現在、眼科に来院する患者層は高齢者が多い。乳幼児から高齢者、各年代層への対応力（声がけ・援助）をこの授業の中で習得できるよう眼科に必要な接遇、マナー、検査技術を実践形式で学ぶ						
内 容							
1	眼科に必要な接遇を学ぶ	10	乱視検査（クロスシリンダー）				
2	眼科実習の心構えと視力検査の目的	11	乱視検査（クロスシリンダー）				
3	カルテの記入	12	視力最終決定値の測定				
4	瞳孔間距離の測定	13	医療面接の方法と技術				
5	裸眼視力の測定	14	安全な誘導				
6	球面レンズを用いて最高視力を求める	15	医療面接から自覚的屈折検査①				
7	球面レンズを用いて最高視力を求める	16	医療面接から自覚的屈折検査②				
8	乱視検査（放射線乱視表）	17	医療面接から自覚的屈折検査③				
9	乱視検査（放射線乱視表）	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）、目でみる視力・屈折検査の進め方（金原）							
			担当講師	松浦理恵 大瀧友矩			

科目	視能矯正学実習 I	必修	履修 学年	1	実習	時間数 (単位数)	36 (1)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	視能訓練士として臨床で得た検査技術を元に眼科検査の入口である視力検査の基礎を習得するため、正確な知識と技術を学べるよう臨床現場を想定し実技授業を行う。さまざまな症例に対応できるよう、基本を大切に更なる応用力を磨いていくことを目標とする						
内 容							
1	視力検査の目的と対象について	10	乱視検査（クロスシリンダー）				
2	視力検査に必要な機器の取り扱い	11	乱視検査（クロスシリンダー）				
3	瞳孔間距離の測定	12	乱視検査（クロスシリンダー）				
4	裸眼視力検査	13	視力最終決定値の測定				
5	球面レンズを用いて最高視力を求める	14	視力最終決定値の測定				
6	球面レンズを用いて最高視力を求める	15	医療面接から自覚的屈折検査				
7	等価球面值と最小錯乱円の理解を深める	16	医療面接から自覚的屈折検査				
8	乱視検査（放射線乱視表）	17	医療面接から自覚的屈折検査				
9	乱視検査（放射線乱視表）	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）、目でみる視力・屈折検査の進め方（金原）							
			担当講師	松浦理恵 大瀧友矩			

科目	生理光学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	視能訓練士に必要な光学について学ぶ。授業は主に幾何光学に重点を置き、光の性質からレンズの機能まで、さらに眼球光学について正常な眼とは何か、屈折異常の種類、矯正方法など検査業務を行うにあたって必要不可欠な知識の吸収に努める。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	Vergenceの利用				
2	光の性質	11	眼球光学				
3	反射、屈折、直進の法則	12	眼の軸				
4	屈折率と光の速度	13	収差とアッベ数				
5	媒体の屈折率	14	屈折異常				
6	レンズの種類と機能	15	調節力				
7	レンズによる光の屈折	16	屈折矯正				
8	レンズによる像の作図	17	まとめ				
9	Vergenceと像の位置	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、各種授業プリント							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視覚機能学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	『みる』ことに関する様々な機能の基礎を総合的に学ぶ。視覚機能の基礎を元に高学年ではさらに高度な視覚機能について学ぶ。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	色覚1				
2	感覚とは	11	色覚2				
3	感覚器の種類と働き	12	光覚1				
4	視覚に関わる機能	13	光覚2				
5	眼球と脳の働き	14	視野1				
6	視覚路1	15	視野2				
7	視覚路2	16	視野3				
8	視力1	17	まとめ				
9	視力2	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、各種授業プリント							
			担当講師	大原秀徳			

科目	リハビリテーション医学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	総合病院勤務で学んだ他科との連携など、実践的なチーム医療についての経験を生かし授業を展開していく。リハビリテーションの概念とリハビリによるQOLの向上、障害の定義など総合的に学習する。視能訓練士は一般的な四肢リハビリ現場に立ち会うことは少ないが、ロービジョンにおいてはチーム医療の要となるため、基本的な知識が必要とされる。後半は医療系の学生にとって必須の救命救急について学び、自らがその現場に居合わせた際の対応について学ぶ。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	障害者手帳の種類				
2	リハビリテーション	11	障害の原因分類				
3	ハビリテーション	12	視覚障害				
4	QOL、QOV、QOVL	13	視能心理学と発達心理				
5	障害の定義	14	心肺蘇生法1				
6	健康の定義	15	心肺蘇生法2				
7	障害の分類	16	心肺蘇生法3				
8	日常生活の不自由度	17	まとめ				
9	障害者に関わる法律	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、各種授業プリント							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視覚臨床学概論 II	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	2つの眼球は共同運動を行っており、両眼でみることは正常な眼球運動があつてこそ成り立つ。この授業では外眼筋の解剖から始まりそれぞれの機能、神経系の働きについて学ぶ。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	眼球運動の種類				
2	視覚機能の基礎	11	両眼共同運動				
3	外眼筋の種類	12	両眼離反運動				
4	外眼筋の作用	13	眼球運動神経				
5	眼球運動の仕組み	14	”				
6	眼球運動の種類	15	反対回旋、VOR				
7	各外眼筋の作用方向	16	総合				
8	”	17	”				
9	ひき運動とむき運動	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、各種授業プリント							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能矯正学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	前期では眼科検査に必要なレンズ光学を生理光学として中心に学び、後期では総合病院勤務経験のある教員が現場で培った実践的な検査技術をもとに検査技術を伝えていく。視力検査を通じてレンズの扱い方、視力矯正の手順を実習形式で学ぶ。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	球面視力測定				
2	実習機材の扱い方、衛生管理	11	円柱レンズの仕組み				
3	レンズの扱い方	12	乱視表を用いた乱視検査				
4	視力検査機器の種類	13	乱視表を用いた乱視検査				
5	視力検査手順	14	クロスシリンダーと変換式				
6	瞳孔間距離の測定	15	クロスシリンダーによる乱視検査				
7	裸眼視力測定	16	クロスシリンダーによる乱視検査				
8	裸眼視力測定	17	まとめ				
9	球面視力測定	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学、目で見える視力検査							
			担当講師	大原秀徳			

科目	視能訓練学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	両眼視機能について学ぶ。両眼視機能とは2つの目を使って"見る"働きのことである。授業では両眼視機能が成り立つための条件をはじめとして、網膜の機能を総合的に学んでいく。現場経験を活かして実際の両眼視機能検査法についても習得する。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	網膜対応の成り立ち				
2	両眼視機能	11	網膜対応の異常				
3	両眼視機能の役割	12	問題演習				
4	両眼視機能の成立条件	13	立体視検査				
5	両眼視機能の種類	14	”				
6	立体視	15	”				
7	”	16	総合				
8	”	17	”				
9	網膜対応	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学							
			担当講師	大原秀徳			

科目	解剖学概論	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	解剖学概論、生理学概論、解剖生理学I、解剖生理学IIを通じて医療系学生に必要な人体の基礎について学ぶ。1年次は人体の全体構造について学んだのち、それぞれの生理的機能について概要をまとめる。2年次では人体をミクロの視点から考察し、細胞の持つ機能、神経系の構造機能についてより深い知識を学んでいく。なお総まとめとして解剖学実習を予定している。						
内 容							
1	細胞内小器官の種類と機能、核と遺伝子	10	胃・肝臓・膵臓の構造と機能				
2	細胞外液・細胞内液、アシドーシス・アルカローシス	11	小腸・大腸の消化メカニズム				
3	膜タンパクの構造と機能	12	腎臓の肉眼構造と機能、血管支配				
4	血液の組成、血球の機能、血漿タンパクの機能	13	腎臓の組織構造と機能、尿生成の機能				
5	血液凝固メカニズム、免疫獲得のメカニズム	14	男性生殖器の構造と機能				
6	呼吸器系（気管・気管支・肺）の構造と機能	15	女性生殖器の構造と機能				
7	ガス交換のメカニズムと肺機能	16	総合問題演習				
8	中間試験と解説	17	総合問題演習				
9	栄養素、消化・吸収のメカニズム	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
解剖生理学（人体と構造と機能）							
			担当講師	桑原俊男			

科目	生理学概論	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	解剖学概論、生理学概論、解剖生理学I、解剖生理学IIを通じて医療系学生に必要な人体の基礎について学ぶ。1年次は人体の全体構造について学んだのち、それぞれの生理的機能について概要をまとめる。2年次では人体をミクロの視点から考察し、細胞の持つ機能、神経系の構造機能についてより深い知識を学んでいく。なお総まとめとして解剖学実習を予定している。						
内 容							
1	この授業の進め方	10	脳神経の構成と機能				
2	ホルモンの性状と化学構造	11	脊髄神経の構成と機能				
3	下垂体前葉・後葉ホルモン	12	自律神経能構成と機能				
4	甲状腺・副腎の構造と機能	13	耳の構造と機能、聴覚の伝導路				
5	神経組織の構成と区分	14	眼球の構造と機能、視覚の伝導路 (1)				
6	神経伝達のメカニズム	15	眼球の構造と機能、視覚の伝導路 (2)				
7	大脳の機能局在	16	鼻の構造と機能、嗅覚の伝導路				
8	間脳・脳幹の構造と機能	17	まとめ				
9	伝導路 (錐体路・脊髄視床路)	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
解剖生理学 (人体と構造と機能)							
			担当講師	桑原俊男			

科目	教育学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	<p>教育とはどのようなものか、教育と看護の共通点を見つけ、自分なりの考えを持つことができる。 また、自分自身の成長過程を振り返ることで自身が教育とどのように関わってきたのか、学校を取り巻く社会とはどのようなものなのかということに関する基礎的な内容について理解する。</p>						
内 容							
1	この授業の進め方	10	養護・発達				
2	社会の中の看護と教育	11	学びの場／教育の目標と評価				
3	教育とはなにか	12	キャリア教育				
4	教育の対象-子ども観と発達	13	ジェンダーとセクシャリティ				
5	教育の対象-子どもの権利	14	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育				
6	教育時事	15	生涯学習／シティズンシップ教育				
7	社会変動と教育	16	総復習				
8	教授	17	試験範囲発表及び質疑応答				
9	訓育	18	単位認定試験				
評 価							
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。</p>							
教 材							
<p>教科書 『系統看護学講座 基礎分野 教育学』 医学書院</p>							
			担当講師	中田祥子			

科目	倫理学	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
目 標	<p>生命倫理学の基本的な知識を習得し、グループディスカッションや映像資料を通じて問題について深く考える力と自己の意見を発信できる力を身につける。</p> <p>身近な健康から生殖医療、臓器移植、死について学ぶことで命の尊さと視能訓練士として医療に携わる際、自身が行う医療行為にどんな意味があるのか、どのように行動していくことがよいか、多角的に考え、自分なりの意見考えを持つことができる。</p>						
内 容							
1	この授業の進め方	10	生殖補助医療②				
2	健康について	11	人の死とは				
3	「いのち」とは	12	いのちを守るための原則と 生命倫理の課題				
4	ヒトも生きものの一員である①	13	脳死と臓器移植				
5	ヒトも生きものの一員である②	14	安楽死と尊厳死				
6	映像資料から考える倫理観①	15	映像資料から考える倫理②				
7	遺伝子について知る①	16	職業倫理				
8	遺伝子について知る②	17	総まとめ				
9	生殖補助医療①	18	課題返却				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
各单元ごとにプリントを配布							
			担当講師	中田祥子			

科目	視能障害学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	基礎医学大要 I で学んだ各器官の構造や機能を理解した上でその器官の障害、疾患について学ぶ。また、眼疾患に深く関わる免疫反応やアレルギー等の解剖生理についても知識を深める。配布プリントでは使用教材以外の様々な症例写真を載せ、より疾患に対する理解を深める。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	中間試験				
2	眼瞼疾患 i	11	中間試験解説				
3	眼瞼疾患 ii	12	角膜疾患 i				
4	結膜疾患 i	13	角膜疾患 ii				
5	結膜疾患 ii (ウイルス、細菌)	14	角膜感染症				
6	結膜疾患 iii (アレルギー)	15	網膜疾患 i				
7	涙器疾患	16	網膜疾患 ii				
8	強膜疾患	17	視能障害学 I まとめ				
9	障害学国家試験問題演習	18	単位認定試験				
評 価							
出席率、授業態度、単位認定試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学 (文光堂)、現代の眼科学 (金原)、イラスト眼科 (文光堂)、配布プリント他							
			担当講師	大瀧友矩 染谷朋美			

科目	基礎医学大要 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	基礎医学大要 I では眼科領域での基礎となる、視覚器の構造、解剖、機能を学ぶ。視能障害学等を学ぶ上で結びつく様に各器官の構造、解剖を正しく学び理解を深める事を目標とする。						
内 容							
1	授業ガイダンス、視覚器の構造について	10	中間試験				
2	眼瞼の構造と機能について	11	中間試験解説				
3	結膜の構造と機能について	12	網膜 i 構造と機能について				
4	涙器の構造と機能について	13	網膜 ii 構造と機能について				
5	強膜の構造と機能について	14	眼窩の構造と機能について				
6	中間透光体 i (角膜、水晶体、硝子体)	15	基礎医学大要国家試験問題演習				
7	中間透光体 ii (角膜、水晶体、硝子体)	16	基礎医学大要国家試験問題演習				
8	ぶどう膜の構造と機能について	17	基礎医学大要まとめ				
9	眼房、房水の機能について	18	単位認定試験				
評 価							
小テスト、出席率、授業態度、単位認定試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし単位を認める。再試験、追試験を認めることがある。							
教 材							
視能学 (文光堂)、現代の眼科学 (金原)、イラスト眼科 (文光堂)、配布資料ほか							
			担当講師	染谷朋美			

科目	視能検査学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	臨床現場での視能訓練士としての勤務経験を生かし、検査学では機器の取り扱いや検査手順、結果の解釈は勿論の事、患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指し学ぶ。器官の構造を把握した上で検査の特徴、目的を理解し、教科書通りのマニュアルのみでなく、自身の現場経験を生かして実際の臨床で役に立つ知識と技術を得ることを目標とする。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	角膜内皮細胞検査				
2	眼瞼の構造	11	角膜形状解析検査				
3	外眼部検査	12	角膜形状解析検査実技				
4	外眼部検査実技	13	画像診断				
5	涙液の仕組み	14	眼圧の仕組み				
6	涙液検査	15	眼圧検査				
7	涙液検査実技	16	隅角検査				
8	細隙灯顕微鏡検査実技	17	まとめ				
9	細隙灯顕微鏡検査	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			

科目	視覚臨床学概論 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	医療職の立場から視能訓練士として必要な教養としての医療倫理を伝える。眼科業務に関係のある関係法規から診療録の取り扱い、ホスピタリティーを含め、医療人として必要な知識の基礎を学ぶ。臨床現場においては様々な患者が来院することから、視能訓練士には高度なコミュニケーション能力が必要となるため、併せて学習する。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	医療安全				
2	病院の基本	11	診療録				
3	医療保険制度	12	学校保健法				
4	医療保険制度	13	救急対応と処置				
5	社会保障制度	14	救急対応と処置				
6	社会保障制度	15	視能訓練士の倫理				
7	関係法規	16	視能訓練士の倫理				
8	関係法規	17	まとめ				
9	医療安全	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、現代の眼科学（金原）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			

科目	保健医療福祉学 I	必修	履修 学年	1	講義	時間数 (単位数)	36 (2)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	医療職の立場から視能訓練士として必要な教養としての医療福祉を伝える。福祉だけでなく、患者様への接遇や一般教養などを学び視能訓練士としての質をさらに向上するのが目標となる。						
内 容							
1	ガイダンス	10	公的扶助				
2	児童福祉	11	生活保護法				
3	児童福祉	12	生活保護法				
4	高齢者福祉	13	接遇・マナー				
5	高齢者福祉	14	接遇・マナー				
6	身体障害者福祉	15	接遇・マナー				
7	身体障害者福祉	16	接遇・マナー				
8	母子・寡婦福祉	17	まとめ				
9	母子・寡婦福祉	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			

科目	視能検査学実習 I	必修	履修 学年	1	実習	時間数 (単位数)	36 (1)
★実務経験のある教員等による授業科目							
目 標	患者様への接遇や検査時の声掛けを意識した実習を行う。矯正学実習と同様に検査手順、結果の解釈を理解したうえで実習に臨む。講義で身につけた知識を臨床で活かすべく、基本を大切にしつつ様々な症例に対応できるよう応用力も磨いていくことを目標とする。						
内 容							
1	授業ガイダンス	10	クロスシリンダー測定3				
2	瞳孔間距離測定	11	クロスシリンダー測定4				
3	裸眼視力測定	12	視力総合				
4	球面レンズ測定	13	視力総合				
5	球面レンズ測定2	14	視力総合				
6	放射線乱視表測定	15	視力総合				
7	放射線乱視表測定2	16	視力総合				
8	クロスシリンダー測定	17	まとめ				
9	クロスシリンダー測定2	18	単位認定試験				
評 価							
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う。60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追試験を行うことがある。							
教 材							
視能学（文光堂）、配布資料等							
			担当講師	大瀧友矩			